

朝の館内放送

令和2年6月1日

おはようございます。市長の中村健です。

今日は、サイレントマジョリティとノイジーマイノリティについて話をします。

サイレントマジョリティは、直訳すると「物言わぬ多数派」を意味し、ノイジーマイノリティは、直訳すると「声が大きい少数派」を意味します。

私自身、市政運営において、「市民が主役のまちづくり」という考え方を一つの柱にしています。

これを実現していく過程では、市民のみなさんとコミュニケーションを取る中で、何を思い、何を求めているかをよく考えながら、把握に努めることが重要です。

そして、その時に念頭に置いておきたいのが、サイレントマジョリティとノイジーマイノリティという考え方です。

行政に対して声高に意見を言ってくれる方は、非常に貴重な存在であり、その声を真摯に受け止める必要があります。

しかし、声が大きいことと、その声が多数の賛同を得られるものか否かは別問題であり、大きな声に従うことが正しいとは限りません。

それでは、いったいどうすればよいのか？

私自身が心がけていることは、次の2つです。

一つ目は、地域、年齢、所属団体等について、特定の属性に偏らないこと。

二つ目は、ある程度のサンプル数を確保すること。

簡単に言えば、幅広く一定数の意見を聞くということです。

極めて当たり前のことですが、これを心がけ実践することで、大体のことはある程度の方向性が見えてきます。

また、多種多様な意見を聞くように努めることで、立場が異なれば考え方が大きく異なることも珍しくないということに、改めて気づかされます。

よくある話として、何か新しいことを始めようとする時、または始めた時に、表立った批判が出ることを理由として、話の腰を折る人がいます。

しかしながら、どんなことにも賛否両論あるのが普通であり、その背景や原因を探らなければ、本質的な判断はできません。

サイレントかノイジーか、マジョリティかマイノリティか、こういった視点も一つの判断基準にしながら、行政マンとしての感性を磨いていってもらうように、よろしくお願いいたします。

以上で、朝の館内放送を終わります。